リフカー

RIFCR 研修を実施しています

7月16日、米原市での研修会

性虐待は表に出にくい虐待ですが、性虐待を受けたのではないかと思われる子どもの話を聴くことは、虐待の早期発見と通告のために欠くことができないものです。性虐待の事実を聴くのに、私たちはためらいを感じるのではないでしょうか。どのように子どもに接し、何を聴けばいいのか、なにを聴いてはいけないのか、戸惑うことが多いと思います。

子どもを傷つけることなく、子どもが心を閉ざしてしまわないように聴く方法を学ぶのが RIFCR です。アメリカのミネソタ州にある子どもの権利擁護センター・コーナーハウスが「子どもの福祉を最優先にする」という理念のもとに考案しました。

性虐待については誤解や情報の不足も多く、研修の前半では時間をかけて「性虐待」について学びます。「性虐待を子どもたちはどのように経験しているか」「虐待を打ち明けるプロセス」「性的発達」と、いろいろな疑問を解消できる研修内容です。

子どもが安心して話ができる関係を築き、心配している事柄の内容を分かりやすく子どもに伝えて、「誰が」「何を」だけ聴く。子どもの安全を確かめ、いま聴いた話を通告することも子どもにきちんと伝えて、すぐに文書で児童相談所に通告する。子どもの安全を守る一連の流れの一つ一つについて具体的に学びます。

NPO 団体が中心になって各地で RIFCR 研修が開催されており、CAPNA でも性虐待から子どもが守られることを願って研修会を行っています。

ご寄付

皆様からご寄付をいただきました。心より御礼申し上げます。

【個人】 (2012.4.1～2012.6.30 分、順不同・敬称略)

競朗子、菊島正雄、五十嵐ベティ、横井幸子、鈴木加代子、向山富雄、吉田衣里、横田実、嶋康子、小川律子、今井正人、黒岩みのり、加藤久美子、小川麻子、谷口紀美江、後藤宗理、吉田由美、大川能子、青山康代、常富佳子、天野清美、林知明、[redacted]、野田正文、矢満田篤二、萬屋育子、早川真理、今西洋子、井上光子 他匿名希望８名

【団体】

国際ソロプチミスト名古屋、愛知県弁護士会、さんもっく

CAPNA ニューズレター　７１号

2012 年 8 月 1 日発行

発　行　認定 NPO 法人　CAPNA

事務局　〒460-0002　名古屋市中区丸の内 1-4-4-404　TEL.052-232-2880　FAX.052-232-2882

印　刷　社会福祉法人名古屋ライトハウス光和寮

CAPNA

キャプナニューズレター71号

巻頭

大津市のいじめ事件。報道される事実はとても悲しく、痛々しいけれど、ネット上での加害者攻撃、学校攻撃にも、子どもたちのいじめ以上に陰湿なものを感じてなりません。

匿名の暴力があふれる社会。子どもたちにいい影響を及ぼすわけはありません。事件に悲憤慷慨するだけでなく、大人がわが身を振り返って考えるべきこと、たくさんあります。

残暑お見舞い申し上げます。

Vol. 71

心に寄り添う相談員めざして

養成講座受講生リポート

第９期電話相談員養成講座を２０名の受講生で5月から始めています。6月30日・7月1日には犬山市のレイクサイド入鹿で、「体験型」主体の宿泊研修を行いました。参加した研修生たち、どんな気づきや成長があったのかその声を紹介します。

印象的だったブラインドウオーク

１日目の午前のロールプレイは、電話形式でのやり取りを５分間行い、終了後話し合うというものでした。初めてのロールプレイは、相手を見ないので表情が読み取れず、相談者のお話にひたすら相槌を打つだけで終わってしまいました。

午後からは、２人一組のブラインドウォークで、それぞれ目隠しをする人、誘導をする人という役割で、ホテルの周辺を散策し、無言でお互い見えない状況で相手のことを感じ合う感性が試されました。私の場合は、パートナーの巧みな誘導に緊張が安心に変わっていき、信頼して委ねることが出来ました。２０分という短い時間でしたが、見えないことで他の感覚が総動員してその状況に集中し、鋭敏になってゆく過程が実感できました。外の空気を胸いっぱい吸い、木々の匂いをかぎ、小鳥のさえずりを聞き、心地よい時間でした。

相手を感じる力磨くブラインドウオーク

２日目のロールプレイは、やり取りを行う２人以外、全員が観察者という状況で、逃げ出したい気分の中、緊張のうちに時間が過ぎてゆきました。終了後、お互いの成長のためということで忌憚なく感想が話し合われました。この経験によって、利用者が真に求めていることを理解する難しさや、自分自身が気づかない癖や傾向を知ることができました。

研修のグループ分け、親睦会の席、部屋割りまですべてがランダムに行われ、おかげでほとんどの参加者の方とお話をすることができました。研修を経た後の４日の講習は、空気が柔らかく、意見や質問も活発に出ていました。やはり宿泊研修の威力は最強ですね。

現在研修を終えて、私は自分自身の能力や適性に疑問だらけで、混乱中です。この先、講座が進んでいくうちに、この疑問に答えが見つかることを願いながら、頑張ってみようと思います。（黒田昭子）

「仲間」を感じた時間

合宿の前までは、一緒の部屋で研修を受けていても、ほとんどの方たちと話すこともなく「次回の研修まで、またね。」と言って帰る私でした。そんな私にとってこの合宿は、とても有意義なものでした。

１日目、【傾聴とは】を学び、その後、人に身を委ねることにより『信頼することと安心感を得ること』を学びました。この時、楽しさと心地良さを知り、喜びを感じました。心を豊かにするということは、

色々な手法があるものだと思いました。

一つ一つの事例に向かう【受け手】の練習は、一人一人の心の中を見ることの出来るものでした。少し“きつい”と思いましたが、自分の考え方、癖などを見直す良い機会にもなりました。聴いているつもりが素行調査になっていってしまう『怖さ』を体験することができました。まだほんの少しかじったところですが、『信頼をする』『信頼してもらう』この気持ちが、利用者の方の『心を和ませ、相談しよう』に繋がるのではないかと思いました。

夕食後の先生の部屋での宴会は、とても楽しく、皆さんの『熱い思い』を聞く良い機会になりました。個々に色々な思いが有り、此処に集まったのだとわかりました。

これからまだまだ研修は続きます。先生方のストレートに語ってくださる事実を基にした研修内容は、とても重く『こんな私で大丈夫かな？』と思わせます。しかし、何とかついて行こうと思います。この、二日間に得た多くの事柄を活かし、皆さんとともに、電話をかけてきてくださった利用者の方々のお役に立てるよう、頑張りたいと思います。今回の合宿で心を同じにする『仲間』を感じることができ、嬉しく思いました。

（安達友子）

傾聴の難しさを再認識

養成講座の宿泊研修は、久しく研修といった事柄から離れていた自分にとって、緊張する気持ちが少々ありました。

研修が始まり、ブラインドウォークでペアを組んだお相手との信頼感の築き方や、ロールプレイの実習は、初めてすることでもありとても新鮮な感覚を覚えました。また、自分の考えや経験が逆に障害になることも多々あるということも、合わせて実感しました。

“自我を抑えて受話器の向こうの相手の話を傾聴する”･･･言葉では表せても実行するには、まだまだ練習と経験が必要なのだと再認識させられました。一緒に参加された、一年間電話相談を経験されている８期の方のお話は、電話相談窓口のようすを実感する良い参考になりました。

日々報道される、虐待・いじめ・子どもに対するわいせつ行為等々のニュース。世の中のこれらの事件の何割が電話相談の窓口に上がってくるのか？　その中で、どれだけの数に良い結果が得られるのか？　もどかしく思うこともしばしばあります。

自分自身では様々な悩みを、そのつど何とか乗り越えて、いまは平穏な日々を送ることができています。その分、今悩んでいる人の心に添えるよう努力していきたい、という思いを新たにした研修でした。（M・S）

寄り添う大切さ学んだ

２日間の宿泊研修を通じて、電話相談員は電話の向こう側で信じて欲しい・理解して欲しい・聴いて欲しいという切なる思いを受容し、共感しながら聴かせていただく事で、利用者の生き辛さやどうしようもない不安や葛藤といった問題に寄り添うと言う事がまず一番大事なのだな、という事を改めて感じました。

研修ではロールプレイ・講義と無言の探索体験を行いノンバーバル（非言語）コミュニケーション行いました。ロールプレイでは利用者への援助的、効果的な対応の仕方を学びました。どのような接し方が他者にとって受け入れやすいものか、またより利用者の感情を汲み取って聴けるかという事やフィードバックしてもらうことで自分自身の癖や課題、相談員としての姿勢を学びました。

講義では自己開示をし、またフィードバックをもらった時はプラスの感情で受け取る事で、自己成長につながる事、無言の探索経験では非言語で行い、そして視覚以外の感覚を働かせる事で配慮すること・されることの対人関係の大切さを体験しました。今までの研修では、参加者の皆様とはあまり話をする機会に恵まれなかったので今回の宿泊研修では参加者の皆様・講師の方々の色々な面を見る事ができ、とても有意義でした。

”虐待防止”という同じ思いで集まった皆様と、この二日間の研修に携わってくださった講師の皆様の暖かいご指導に感謝します。お疲れ様でした。（水野真由）